

小金井公園 (武蔵野市桜堤三丁目地内ほか)

令和元年10月7日(月)
建設局公園緑地部

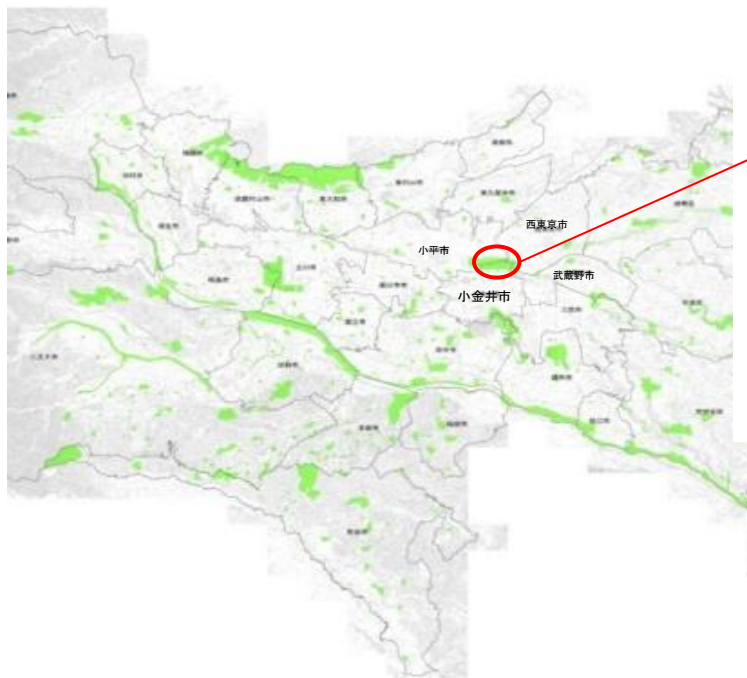
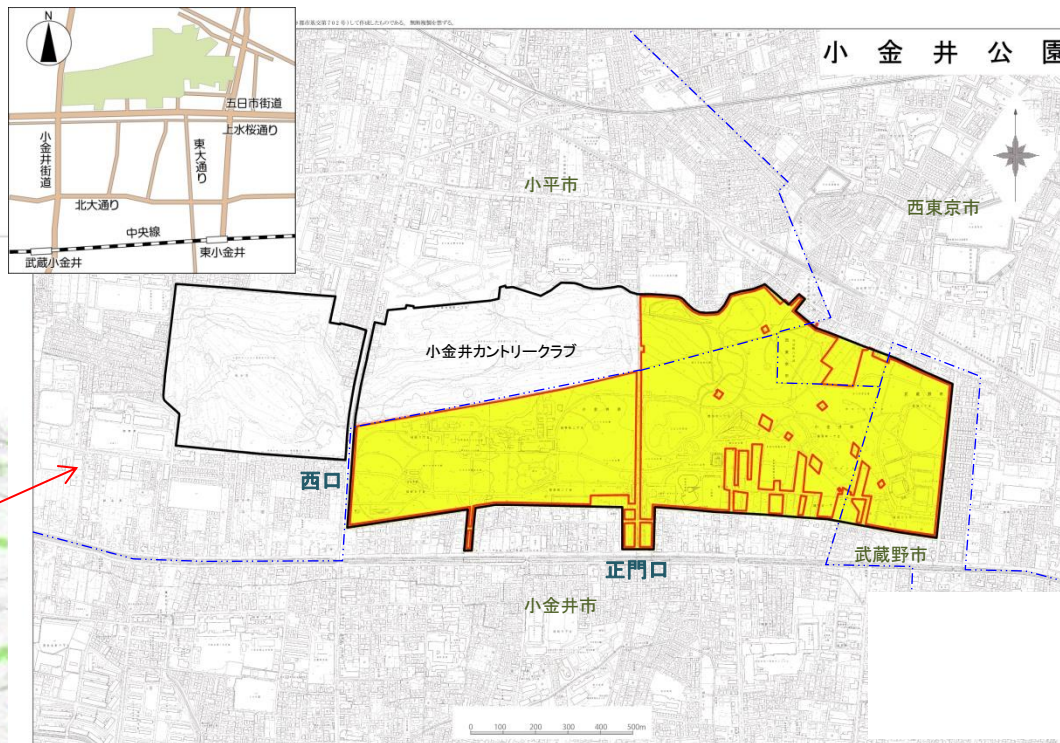
目次

1. 事業概要	1
2. 社会経済情勢等の変化	4
3. 事業の投資効果	6
4. 事業の進捗状況	10
5. 事業の進捗の見込みの視点	12
6. コスト縮減等	13
7. 対応方針(原案)	13

1. 事業概要

(1) 事業の目的と計画の概要(計画諸元)

所在地	東京都武蔵野市、小金井市、小平市、西東京市
種別	都市公園(広域公園)
都市計画決定	当初:昭和32年12月21日 最終:平成16年4月22日
都市計画決定面積	当初:148.1 ha 最終:146.9 ha



案内図

平成31年3月31日現在	種別	面積 (ha)
都市計画決定区域		146.9
開園区域		80.23
事業認可区域 (今回評価対象)		92.16

1. 事業概要

(1) 事業の目的と計画の概要(公園の概要)

<基本的な性格・役割>

- ・大規模総合公園(雑木林から遊具広場、運動施設、サクラの名所など多様な性格を持つ)
- ・生物の生息・生育環境の保全
- ・防災上の重要な役割(東京都地域防災計画等に位置づけ)



1. 事業概要

(1) 事業の目的と計画の概要(公園の概要)

<主な整備内容>

- ・テニスコートをはじめとした運動施設や、バーベキュー場、遊具施設など、利用者の多様なニーズに応じる施設を整備
- ・バードサンクチュアリを設置し、雑木林を保全し、自然観察の楽しめる場を提供
- ・防災公園として、広場の確保及び防災施設を整備



2. 社会経済情勢等の変化

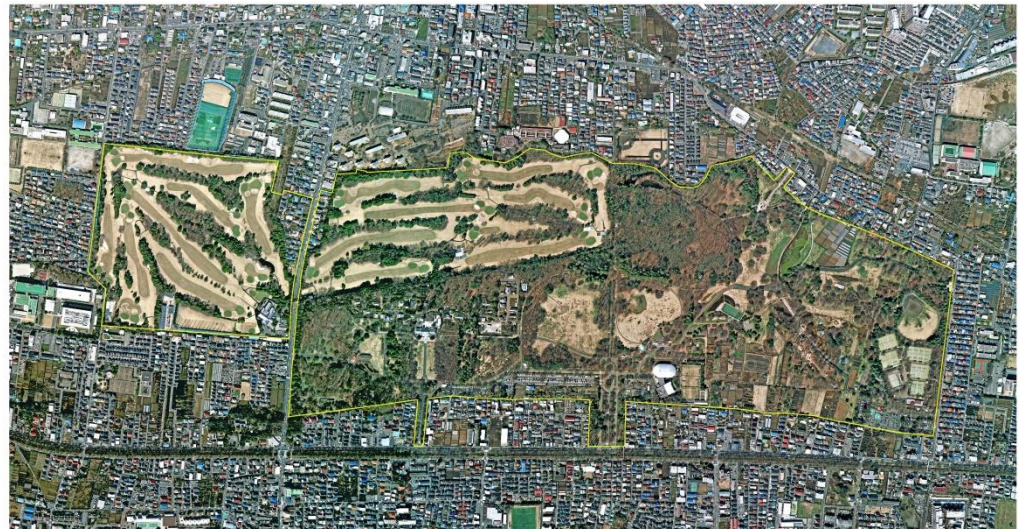
(1) 社会経済情勢等の変化(計画決定～)

主な経緯

- 昭和15年(1940年) 紀元2600年記念事業の小金井大緑地として計画
- 昭和27年(1952年) 当初事業認可(27.31ha)
- 昭和29年(1954年) 開園(8.4ha)
- 昭和32年(1957年) 小金井公園として都市計画決定(148.1ha)
- 平成16年(2004年) 最終都市計画(146.9ha)
- 平成27年(2015年) 最終事業認可(92.16ha、昭和27年度～令和元年度)
- 現在、計画面積 146.9 haのうち80.23haを開園



▲昭和31年の航空写真
(出典:国土地理院 地図・空中写真閲覧サービス M578-2.217を加工)



▲平成20年の航空写真(東京都所有データ)

2. 社会経済情勢等の変化

(2) スポーツ、文化的価値の継承、災害対策等の需要増加

○大正13年

史跡名勝天然記念物法(現在の文化財保護法)により玉川上水沿いの桜が「名勝小金井桜」として指定

○平成7年

阪神淡路大震災発生。大規模公園での震災時の役割のひとつとして、自衛隊等の活動拠点としての活用に注目

○平成23年

東日本大震災発生。非常用発電等の必要性に注目

(小金井公園年表)

○昭和29年 開園

○昭和29年以降

「小金井桜」の衰退に伴い、名所を継承する場として計画的に植栽

○平成3年

小金井市の要望を受け、小金井市立総合体育館が開設

○平成5年

東京江戸東京博物館の小金井分館として、「江戸東京たてもの園」が開設(生活文化局所管)

○平成15年

東京都地域防災計画において、小金井公園「いこいの広場」が救出・救助の活動拠点に指定



3. 事業の投資効果

(1) 定量的評価...費用対効果分析

「改訂第4版大規模公園費用対効果分析手法マニュアル」(国土交通省)に基づき算出

便益(B)	直接利用価値		間接利用価値		合計	費用便益比 (B/C)
	5253.9億円		4249.7億円		9503.6億円	
費用(C)	用地費	施設費		維持管理費	合計	11.79
	617億円	57.5億円		131.9億円	806.3億円	

今回の評価対象地 = 事業認可区域(昭和27年度認可取得)

直接利用価値...スポーツや散策など公園を利用することで得られる価値を貨幣換算したもの

間接利用価値...公園による気候緩和、CO₂削減、景観向上や、延焼防止、地下水涵養、
震災時避難場所といった価値を貨幣換算したもの

⇒ 便益は、公園区域の開園開始から50年後に価値がゼロとなるように逓減

用地費 ...公園用地を取得するのに要した実費 + 事業認可終了までかかる見込費用

施設費 ...公園施設を整備するのに要した実費 + 事業認可終了までかかる見込費用

維持管理費 ...開園時から事業認可終了後50年間の維持管理に要する費用

各年度の便益・費用について、過去分はGDPデフレーター、未来分は年4%の割引率をかけることにより、現在に換算した貨幣価値を算出。

3. 事業の投資効果

(2) 定性的評価・・・多数の利用者(来園者)

- ・運動・レクリエーション施設の利用や、雑木林での自然観察など多様な利用
- ・ボランティアとの協働により、サクラや花壇管理、ドッグランの清掃・啓発活動などを実施
- ・園内では自然観察会やスポーツイベントなど、公園の特色を活かしたイベントを実施

平成30年度入園者数(推定) 2,678,082人



▲スポーツイベント



▲「四季の花まつり」の桜の学校

3. 事業の投資効果

(2) 定性的評価・・・利用者の健康増進・レクリエーションの提供

園内では、多様なスポーツ施設を設置しており、利用者の健康増進に寄与している。

- ・野球場
- ・テニスコート
- ・弓道場
- ・ゲートボール場
- ・サイクリングコース
- ・小金井市立総合体育館施設
など

テニス	野球場	弓道場
142,679	14,528	8,655

▲平成30年度 園内主要施設利用者数(人)



▲野球場



▲サイクリングコース

3. 事業の投資効果

(2) 定性的評価・・・災害時対応

- ・「いこいの広場」は、ヘリコプターの離発着を想定した大規模救出活動拠点に指定
- ・マンホール型トイレや防災井戸ポンプをはじめとして、災害時対応の施設を整備・管理

ヘリコプター離発着の可能性がある広場 (大規模救出救助活動拠点)

マンホール型トイレ

防災井戸ポンプ

ヘリコプター離発着の可能性がある広場 (大規模救出救助活動拠点)	防災トイレ (常設)	ソーラー照明灯	公衆電話
ヘリコプター離発着の可能性がある広場	防災井戸ポンプ	緊急車両出入口	避難誘導灯
かまどベンチ	災害救援自動販売機	AED	サービスセンター
マンホール型トイレ	広域避難場所表示灯		

9

4. 事業の進捗状況

(1) 用地取得状況・開園状況 (H30年度末時点)

事業期間	昭和27年度 ～令和元年度
取得予定面積	92.16ha
既取得面積	80.7ha
用地取得率	87.6 %



4. 事業の進捗状況

(3) 事業費の執行状況

事業費の執行状況（H30年度末時点）			
	用地費(百万円)	工事費(百万円)	合計(百万円)
全体事業費	41,542百万円	3,724百万円	45,266百万円
執行済額	27,487百万円	2,825百万円	30,312百万円
(執行率)	66.2%	75.9%	67.0%

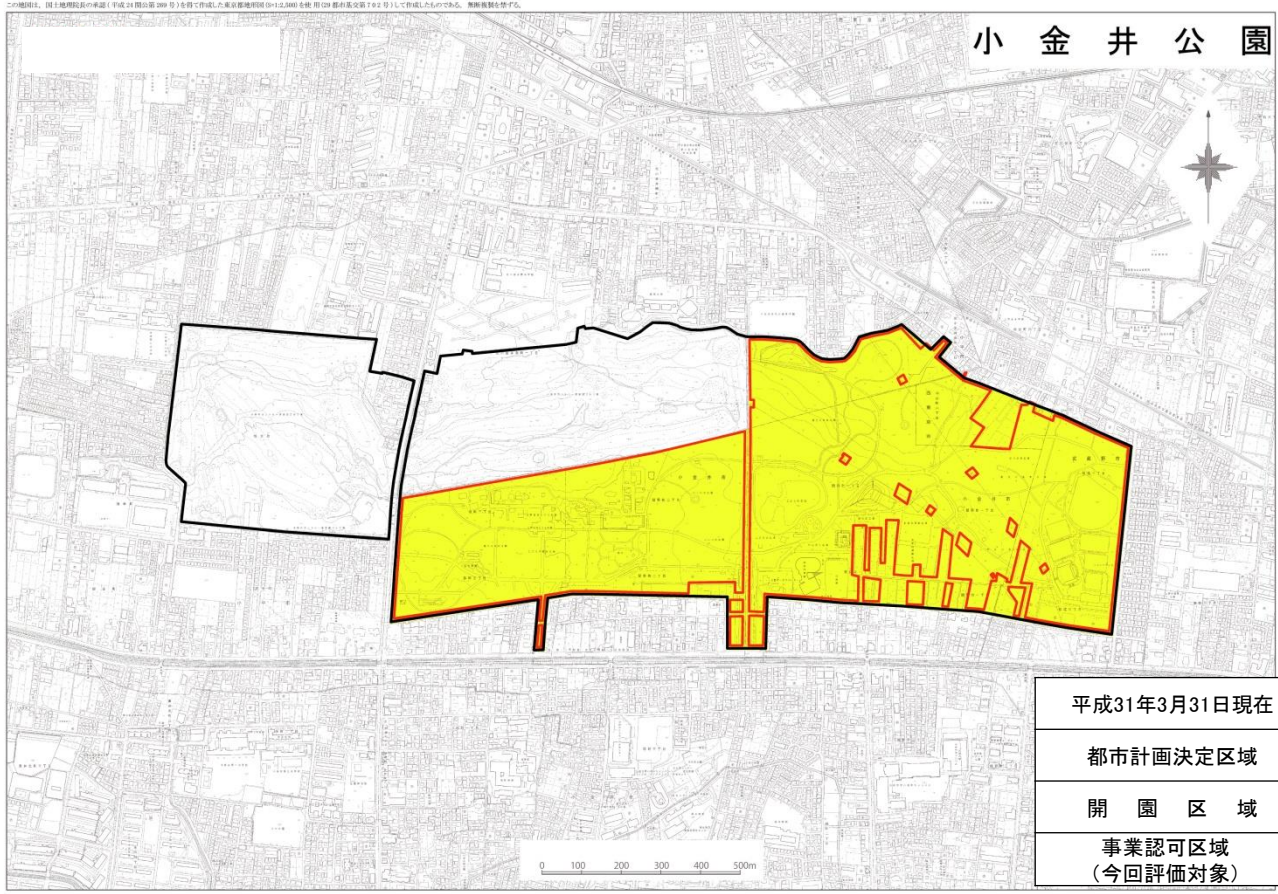
<一定期間を要した背景>

未取得地の多くは畑であり、営農者の生活基盤となっていることから、地権者の売却意向に配慮しつつ用地取得を進めている。

5. 事業の進捗の見込みの視点

(1) 事業認可区域

未取得地について、引き続き用地取得を進め、未開園地を整備・開園していく。



平成31年3月31日現在	種別	面積 (ha)
都市計画決定区域		146.9
開園区域		80.23
事業認可区域 (今回評価対象)		92.16

6. コスト縮減や代替立案等の可能性の視点

- ・園路灯や管理施設の照明について、LEDへの転換を図り、維持管理のコスト縮減を実施。
- ・平成15年度から「思い出ベンチ事業」を実施し、寄付により47基設置。
- ・引き続き、緑の保全、防災、運動・レクリエーション機能の向上を進める必要があり、代替立案等の可能性はない。



7. 今後の対応方針(案)

(1) 総合評価

- ・市街地の中でまとまった緑地面積を持つ極めて重要な公園である。
- ・防災公園として整備しており、広域的な立地からみても代替となる用地の確保は非常に困難である。
- ・運動・レクリエーション機能の点からも広域的な拠点となる公園である。

(2) 対応方針(案)

継 続